puchiasebi
プチアセビ
受験生応援ニュースレター
2017.08 発行　Vol.23
発行：奈良佐保短期大学入試・広報センター
電話：0742-61-9708、9709（入試・広報センター直通）
http://www.narasaho-c.ac.jp/
Email:info@narasaho-c.ac.jp

FACE

地域こども学科こども保育コース
スポーツフィールドの活動風景

西田　拓矢 さん
三重県立伊賀白鳳高等学校卒業

VOICE

本当に多くの方々に支えられて、ここまでやってこられました。
周りに支えられた分、今度は子どもたちの成長を支えていきたいです。

今回は地域こども学科２回生の西田くんにお話を聞きました。まず、奈良佐保短期大学を選んだ理由は？

「僕は、中学校の職場体験学習をきっかけに保育士を目指し始めたんですが、高校まで野球をやっていたこともあり、フィールド制でスポーツに特化した保育を学びながら自分の特技や経験も活かせると考えて、ここに入ろうと決めました。」

スポーツフィールドではどのような活動に取り組んでいるのですか？

「月に１回、附属幼稚園の子どもたちを大学に迎えて運動遊びを自分たちで実践します。

企画準備、実践、反省や考察にみんなで取り組んで、実践現場を想定しながら深く学べるのがいいところですね。」

大学生活、とても充実している様子ですが、苦労されたことなどはありましたか？

「ピアノです。保育士を目指す上で、避けては通れない壁でした。入学までピアノを触ったこともなかったんで不安でしょうがなかったし、入学後も実際に苦労しました。でも、授業で先生方の指導を受けて、大学でも家でもとにかく最低一日一時間はピアノに向かうと心に決めて練習してきました。『やっぱりやらんと身につかへんな、やっていかんとついていけへんな』って実感しましたし、他のピアノ初心者の友だちが上達していくのを目にして『俺も負けてられへん！』って刺激を受けましたね。すると、少しずつできるようになって、そのうちに楽しさも生まれてくるんです。何事も時間の使い方が大切なんだと身をもって学びました。」

努力の積み重ねが保育士への道を切り拓いたわけですね。そのような西田くんの努力を支えてくれたのは何だったんですか？

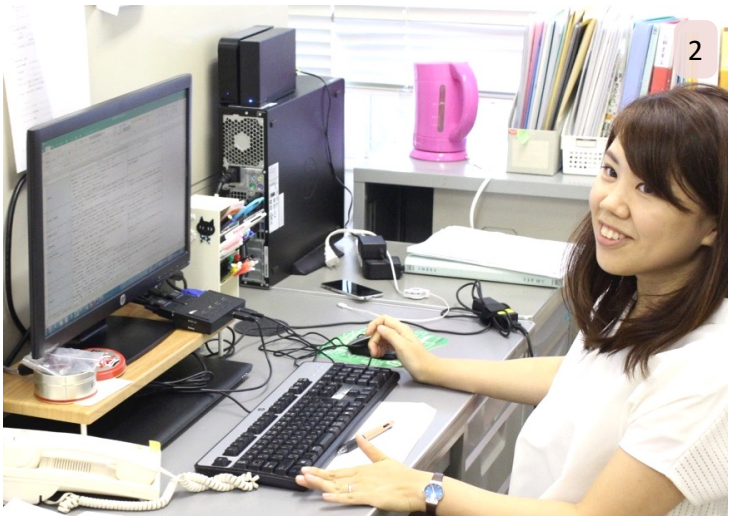
「やっぱり家族、親ですね。自分が保育の道に進むと決意した時も、背中を押してくれたのは親でした。普段から家に帰ると何でも話を聞いてくれて、いつでも応援してくれて。それに、友だちや先生、本当に多くの方々の支えがあって、ここまで来ました。でも、これからのことを考えたらやっぱり自分の芯をしっかり立てて頑張っていかなきゃ、いつまでも周りに頼ってばかりではダメだとも思います。周りに支えられた分、今度は子どもたちの成長を支える側に立てるように、残りの大学生活でも精一杯学びたいです。」

MESSAGE from NARASAHO COLLEGE STAFFS

03 情報メディアセンター

Center for Computing and Media Studies

1



2

奈良佐保短期大学の魅力あふれる職員から受験生へメッセージをお届けします。今回は、情報メディアセンターの村田さんです。

1　奈良佐保短期大学の情報機器やシステムの管理を担当している村田 美圭さん、いつも優しい笑顔の素敵な職員さんです。

2　情報メディアセンター内にある村田さんのデスクは、研究室と共存しており、日頃から研究室に出入りする学生を見守りつつ、教員との連携もバッチリ！

3　情報メディアセンターは、大学全体のネットワーク、サーバ、パソコンの管理から始まり、学生の皆さんの活動や教職員の業務を支えるシステムをつくったり、個人情報やネットワークのセキュリティを守ったりする仕事をしています。「自分がつくったシステムやプログラムを使ってもらえること、そして、それが大切にされていること」と仕事のやりがいを語る村田さんです。

迷って悩んで切り拓く進路。その選択は、きっと人生を豊かにする。

まず、村田さんから見て、奈良佐保短期大学はどのような大学ですか？

「働き始めてまずビックリしたのは、学生と先生の距離の近さ！初出勤の日のことだったんですが、大学の先生と並んで１号館から６号館まで移動するだけで、たくさんの学生さんがすれ違いざまに先生に親しみを込めて話しかけてくるんですね。不思議でした。大学の先生ってもっと遠くにいて、話しかけるにも勇気がいる存在だと思っていたので…（笑）。でも、今では私も、研究室によく出入りする学生さんと仲良く楽しく話をさせてもらっています。本学は、学生と教職員も、学生同士も気持ちいい距離感で学べる大学だと思います。」

村田さん、昔はピアノの先生を目指していたという噂を聞きました。…そうだったんですか !?

「そうなんです。ずっとピアノを習っていたので、高校１年生の時までは『自分にはこれしかない！』と思っていました。でも、高校の先生からは『本当にそれで食べていけるの？』、ピアノの先生からは『人が好きじゃないと、この仕事やっていけないよ』という言葉が返ってきて、私、当時から人見知りで人付き合いの苦手意識が強くて、進路を迷い始めて…。それで、手に職つけようと理系に進んで、大学は工学部で勉強しました。人じゃなくてモノに向き合おうと…。この進路変更ですごく悔しい思いをしたので、それをバネにしてプログラマーへの道を進んでいきました。でも、今となっては当時の選択に全く後悔はないんです。巡り巡って、プログラマーとしての経験を活かしながら、今は大学という場で、たくさんの人とのつながりの中で職員として働いています。皆さんの中には、目標に向かう気持ちを固めた受験生も、進路選択に思い悩んでいる受験生もいると思います。私は、そうやって迷い悩み尽くした末に、思い切って方向転換する受験生の気持ちも後押ししてあげたいです。その先にも新しい可能性は必ず見つかるし、長い目で見れば、巡り巡って自分の人生を豊かにしてくれる選択だったと振り返る日がきっと来るはずです。」

3

『プチアセビ』のバックナンバーもご覧いただけます。